

日本と朝鮮の平和的関係を再構築した朝鮮通信使

～静岡が果たした歴史的な意義とは何か～

日本を取り巻く東アジアの国際情勢が慌ただしい。

しかし、歴史を紐解くと、かつての日本は巧みな知恵と戦略で

幾多の困難を切り抜けてきたことがわかる。

川勝平太静岡県知事が東アジアの国際関係史を研究するロナルド・トビ氏とともに

「朝鮮通信使」から見えてくる日本の外交史について語り合った。

富士山を世界に
知らしめたもの

知事 今年(2018年)3月に
富士市で開催した「富士山学」を拓く」の国際シンポジウムに、遠く
アメリカ・イリノイ大学からお越

しくださり、「富士山国際化の前

史―江戸期の言説を中心に―」
という内容の濃いすばらしい講

演をしてくださいました。講演のキーワードは「富士山」と「朝

鮮通信使」ですね。富士山は
2013年に世界文化遺産に、

朝鮮通信使は2017年にユネスコの記憶遺産に登録されました。そのご感想からお聞かせください。

トビ氏 富士山と朝鮮通信使、ともに世界遺産に登録されるだけの意義があります。富士山は世界各地で親しまれる山として、文化遺産であるということが非常に重要です。科学的な研究はもちろん、日本人にとって、そして世界の人々にとって、富士山は文化としての存在が大きいと思います。例えば、19世紀のイギリス人旅行作家のイザベラ・バードは日本に来る前から

表現し「論」をつけたわけです。
それが1801年です。

知事 1801年以前の日本には「鎖国」という言葉がなく、「鎖国」という観念もなかった。

トビ氏 言葉がないから言えないと。「他方『通商』は、国家間の外交関係はないけれど、一応交易は許す『通商関係』であり、これはオランダと中国に限る」という構図を打ち出しています。

知事 琉球王国は清国と島津藩に両属していました。朝鮮王国は対馬藩を介して幕府と「通信」を行つたので、「朝鮮通信使」と呼ばれます。先生は1984年にState and Diplomacy in Early Modern Japan(邦訳「近世日本の国家形成と外交」創文社、1990)を出されました。

朝鮮通信史の徹底的な研究で、徳富士山を頭の中でイメージして
いたと言います。つまりその時
点で富士山は世界文化のひとつ
のメルクマールというか、文化
遺産になっていたわけです。

トビ氏 英語圏で富士山を知らしめた文献は何でしょうか。

トビ氏 おそらく、オールコック
が書いた「大君の都」です。ご
く前に、ペリーも艦隊を日本へ
ロッパに流布しました。日本語
を読んだ上で日本へやつて来て
いました。

知事 17世紀末に来日したドイツ建築忠雄がオランダ語「日本誌」の一部を訳しました。先生は志筑が訳したオランダ語訳のもと
の英語版にまで遡って、ケンペルの「日本誌」の一部を訳した志筑の本から「鎖国」という用語が、どのようにして日本社会に登場したか、その経緯を考証されました。

トビ氏 当時のタイトルを直訳すると「日本はその国を鎖してその国民を異國の人間と交流をせしめざることにおいて益があるや否やの論」となります。すごく長い。そこで「国を鎖す」というフレーズを漢文式に「鎖国」と
言います。

トビ氏 政治の舵取りになります。そこで日本と朝鮮は、戦前の平和的関係を再構築するために国交回復の交渉を行うのですが、朝鮮はまず家康からの国書を求めるや否やの論」となります。すぐそこには「日本に非があった」と認めることで島の暮らしを朝鮮との貿易に頼っていた対馬は国書を偽造し、そこに「日本国王」と「明(中國)」の年号」を記しました。日本が国王を名乗り、明の年号を使ふことはあり得ないため、朝鮮はすぐに偽造を見破りますが、建前であつても一応要求に応じてくれた日本へ返書を送るため、1607年に使節団を日本へ派遣します。これが朝鮮通信使の始まりです。当初は日本に残留していた朝鮮人捕虜を連れ戻す目的もあつたので正式には回答兼刷還使と呼びます。ただ、返書であることが明らかになれば最初の偽造もばれてしまうので、朝鮮国王と幕府間で偽造国書のやり取りが3度目の使節団まで続きます。

トビ氏 全12回ですが、最初は対馬藩による国書の偽造で知られる「柳川一件」がありましたね。

トビ氏 ご存知のように、江戸幕府が設立される前、豊臣秀吉による朝鮮戦争がありました。文禄・慶長の役、朝鮮で言う壬辰倭乱です。その終戦直前に秀吉が亡くなり、徳川家康が日本



イリノイ大学名誉教授
ロナルド・トビ氏

知事 おそらく、オールコック
が書いた「大君の都」です。ご
く前に、ペリーも艦隊を日本へ
ロッパに流布しました。日本語
を読んだ上で日本へやつて来て
いました。

知事 17世紀末に来日したドイツ建築忠雄がオランダ語「日本誌」の一部を訳しました。先生は志筑が訳したオランダ語訳のもと
の英語版にまで遡って、ケンペルの「日本誌」の一部を訳した志筑の本から「鎖国」という用語が、どのようにして日本社会に登場したか、その経緯を考証されました。

ツ・ケンペルの遺稿「日本誌」(ドイツ語)が18世紀初めに英訳されています。それを綿密に記録し叙述しています。あの本はロンドン版の初版、ニューヨーク版の第2版に続き、その後も版を重ねているので、良く知られています。

トビ氏 「日本誌」は英訳が根底にあって、オランダ語、フランス語、スペイン語、イタリア語と6つくらいのバージョンでヨーロッパに流布しました。日本語を読んだ上で日本へやつて来ていました。オールコックも日本へ赴く前に、ペリーも艦隊を日本へ

率いる前に読んでいます。

トビ氏 長崎のオランダ語通事の志筑忠雄がオランダ語「日本誌」の一部を訳しました。先生は志筑が訳したオランダ語訳のもと
の英語版にまで遡って、ケンペルの「日本誌」の一部を訳した志筑の本から「鎖国」という用語が、どのようにして日本社会に登場したか、その経緯を考証されました。

トビ氏 「日本誌」は英訳が根底にあって、オランダ語、フランス語、スペイン語、イタリア語と6つくらいのバージョンでヨーロッパに流布しました。日本語を読んだ上で日本へやつて来ていました。オールコックも日本へ赴く前に、ペリーも艦隊を日本へ

率いる前に読んでいます。

トビ氏 「日本誌

日本と朝鮮の平和的関係を再構築した朝鮮通信使

～静岡が果たした歴史的な意義とは何か～

忠に謁見した約500人の使節団は、静岡の清見寺に投宿して、大御所の家康から歓待を受けました。朝鮮使節は、国交回復にかかる家康の本気度を本国に報告し、10年後に2回目の使節が来日しました。しかし、対馬藩の国書の偽造が露見し、通常なら、対馬藩は断絶ですが、実際は違った。このあたりの両国政府の事件への対処はいかにも外交的です。

トビ氏 外交的です。対馬藩の宗家は鎌倉時代以降、対馬を支配してきた家柄。朝鮮側から見ると宗氏が絶えず日本を代表する立場として間に立っています。しかも宗氏とその家来は朝鮮と付き合っていく上で必要な知識と技能を持つている。だから対馬の宗家を改易して別の者を送り込むのは、それまでに築き上げてきた対朝鮮関係を維持する上で得策ではありません。

そこで偽造に直接関わった2人を東北へ流刑し、対馬の宗家はお咎めなしとしたのです。これは当時の将軍・家光自身が1635(寛永12)年の御前裁判で決めたことです。

家体制と相並びます。ウエストファリア体制は、領土を尊重し、内政不干渉という近代の国際秩序の源流ですが、当時の東アジアでは、ヨーロッパに先立つて、中国は中華を自負し、朝鮮は小中華意識を持つて清の年号を使わず、日本は独自の年号を使って朝鮮や琉球と外交をしていました。江戸時代の日本が鎖国をしていったという通念は思い込み過ぎない、ということですね。

トビ氏 その通りです。

トビ氏 富士山が日本全域の人々に親しまれるようになつたのは、江戸期に入つて参勤交代、商売、寺社参詣などで人々が旅をするようになつてからです。やがて富士山は文学、絵画、芸能、工芸などの文化の源泉となり、そのディスクールが富士山を日本を見ています。通信使を描いた「朝鮮人大行列記」には「ふじの山ハ三ごく一の山じや」という朝鮮人の台詞も書き込まれ、



静岡県知事 川勝 平太

1948年生まれ。早稲田大、同大学院を経て英オックスフォード大で博士号取得。早大教授、国際日本文化研究センター教授、静岡文化芸術大学学長などを経て2009年より現職。現在3期目。



锁国という外交
(全集 日本の歴史9)
ロナルド・トビ著(小学館刊)



近世日本の国家形成と外交
ロナルド・トビ著(創文社刊)
速水融・永積洋子・川勝平太 訳

知事 1630年代というのには、教科書的には、5回の「鎖国令」で鎖国完成といわれる時期です。その時期に実際は、幕府は外交に腐心し、国書の偽造が表面化し、「日本国王」とは名乗らない日本の將軍を、どのような称号にすれば良いのか、大問題でしたね。

トビ氏 大問題です。それまでの国書には中国と日本の年号をあえて記しませんでした。日本の元号を使わないことは便宜上やややすいのですが、日本という国家を主張できなくなり、思案的な空に浮いてる印象を与えます。そこで幕府が工夫して、寛永13年の国書に「寛永13年12月27日」と書きました。これによつて日本には独自の元号があ

ります。これはまずいので外交称号として全く前例のない「日本國大君」という称号を將軍に付しました。国書に記す元号と日本國大君の表記は、中国を中心とする国際秩序から日本が離脱したことを宣言する形になつたと私は理解しています。

知事 当時の東アジアの国際秩序は「中華」の天子と周囲の「夷狄」の國王群からなる「華夷秩序」ですが、1630年代に日本

都合良く1644年に明が滅亡します。明に恩義を感じていた本國大君の表記は、中国を中心とする国際秩序から日本が離脱したことを見言する形になつたと私は理解しています。

トビ氏 そしてたまたま幕府に就きました。まさに平和交流で最後に一言。日本と朝鮮は多くの危機を乗り越えて今日に至っています。数年前、李明博大統領(当時)が竹島に上陸してこじれた日韓関係の修復のために私は朴槿恵大統領に書簡を送りました。内容は、1607年、朝鮮の使節が静岡に来た朝鮮暦の6月20日に、清見寺で裏千家大宗匠がお茶をたて、徳川宗家18代の徳川恒孝さんが同席し、茶会を平和のシンボルとして、朝鮮通信使をユネスコの記憶遺産登録を目指すことを定めました。こうした富士山に

が「大君」号を編み出し、「中國的な華夷秩序」から離脱したのは画期的です。日本側の勝手な思い込みではあります。が、「日本型の華夷秩序」を創出して、朝鮮王国もそれと矛盾した動きをしない。それどころか、幕府は、朝鮮通信使も琉球使節も日本に朝貢しに来日している、という演出をした。

イリノイ大学
名誉教授 ロナルド・トビ氏

1942年生まれ。アメリカの歴史学者。コロンビア大学で博士号取得。カリフォルニア大学バークレー校、東京大学、慶應義塾大学ほかで教鞭をとる。2012年に第1回日本研究功労賞を受賞。